



平成27年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年6月25日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 パルコ

コード番号 8251 URL <http://www.parco.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 牧山 浩三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役財務部、経理部、事務統括部担当 (氏名) 野口 秀樹

TEL 03-3477-5791

四半期報告書提出予定日 平成26年7月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第1四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第1四半期	67,670	3.7	3,011	8.3	2,998	8.8	1,647	3.8
26年2月期第1四半期	65,282	0.9	2,781	31.7	2,755	43.6	1,587	127.9

(注) 包括利益 27年2月期第1四半期 1,470百万円 (△21.0%) 26年2月期第1四半期 1,860百万円 (149.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第1四半期	16.23	—
26年2月期第1四半期	15.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
27年2月期第1四半期	226,096		109,380		48.4
26年2月期	220,757		108,823		49.3

(参考) 自己資本 27年2月期第1四半期 109,380百万円 26年2月期 108,823百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	円 銭	
26年2月期	—	9.00	—	9.00	円 銭	18.00
27年2月期	—	—	—	—	円 銭	—
27年2月期(予想)	—	9.00	—	9.00	円 銭	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年2月期の連結業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	132,200	2.2	6,100	2.9	6,000	3.0	3,350	2.1	33.02
通期	273,000	3.3	12,200	0.0	12,050	0.3	6,800	0.3	67.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年2月期1Q	101,462,977 株	26年2月期	101,462,977 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

27年2月期1Q	2,684 株	26年2月期	2,587 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年2月期1Q	101,460,342 株	26年2月期1Q	101,453,390 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日本銀行による経済対策及び金融政策の効果もあり、緩やかな景気回復傾向にありました。また、国内消費環境では、アジアを中心とした訪日外国人の増加による消費の底支えが見られた一方、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動により、個人消費は不安定な状態が続きました。

このような状況の下、当社グループは、中期経営計画（平成26年度～平成28年度）の初年度として、計画に基づく事業展開を推進いたしました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、仙台駅西口地区に「新たな商業施設」を出店することを決定し、都心部での事業拠点の拡大を図るとともに、本年秋の福岡パルコ新館（仮称）及び名古屋ゼロゲート（仮称）の開業に向けた業務を推進いたしました。また、既存パルコ店舗では、各店においてテーマ性を持った提案型の改装や<PARCOカード>を軸とした販売促進策を積極的に推進したほか、専門店事業でも新規出店や販売促進策を強化し、消費税率引き上げによる消費環境の変化に対応いたしました。

この結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は676億70百万円（前年同期比103.7%）、営業利益は30億11百万円（前年同期比108.3%）、経常利益は29億98百万円（前年同期比108.8%）、四半期純利益は16億47百万円（前年同期比103.8%）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

<ショッピングセンター事業>

ショッピングセンター事業の売上高は613億64百万円（前年同期比103.1%）、営業利益は28億31百万円（前年同期比109.2%）となりました。

既存パルコ店舗につきましては、引き続き「都心型店舗（※1）」、「コミュニティ型店舗（※2）」の2類型の進化と差異化を図るべく、業態革新を推進いたしました。春の改装につきましては、都心型店舗を中心にコアターゲットの拡大をテーマに改装を推進いたしました。全店計約18,000㎡を改装し、改装ゾーンの売上高前年同期比は全店計133.1%と伸長いたしました。主な改装店は次のとおりです。

[渋谷パルコ]

ファッションとカルチャーの融合、グローバルな情報発信をテーマに、先進的で話題性のあるショップを積極的に導入いたしました。パート1の2階に旬なファッションブランドを導入したほか、3階には有力セレクトショップを導入いたしました。

[名古屋パルコ]

総合的なライフスタイル提案ビルの確立を目指し、多彩なショップを導入いたしました。西館3階のレディスゾーンに上質なファッションショップを導入したほか、南館5階を全面的に刷新し、ファッションのみならず、インテリアや雑貨、カフェなどからなるライフスタイルフロアとして再編いたしました。

[福岡パルコ]

平成26年秋の新館開業及び平成27年春の隣接ビルへの増床を見据え、新しい天神のランドマークビルとしてのポジションを確立するべく、話題性のあるショップの導入を実施いたしました。1階に九州地区初出店となるカフェを導入したほか、上層階の核テナントのリニューアルを実施し、集客力と館内の滞留性の向上によるビル全体の活性化を図りました。

（※1） 都心型店舗（札幌パルコ、仙台パルコ、池袋パルコ、渋谷パルコ、静岡パルコ、名古屋パルコ、広島パルコ、福岡パルコ）

（※2） コミュニティ型店舗（宇都宮パルコ、浦和パルコ、新所沢パルコ、千葉パルコ、津田沼パルコ、ひばりが丘パルコ、

吉祥寺パルコ、調布パルコ、松本パルコ、大津パルコ、熊本パルコ）

営業企画につきましては、消費税増税前の需要を見込み、3月に<PARCOカード>会員に対する優待企画の強化を実施したほか、増税後の5月にも優待企画を積極的に展開いたしました。これにより<PARCOカード>取扱高は前年同期比109.7%と伸長いたしました。

また、前年に引き続き、独自の先行的ICT（※3）活用を積極的に推進いたしました。パルコショップブログに、新たな機能である「取置き予約」と「Eコマース」を付加した新サービス『カエルパルコ』の運用を一部店舗で開始いたしました。これにより、お客様は24時間、ショップスタッフがブログ記事で紹介した商品の購入を楽しむことが可能になります。今後も、このようなサービスを拡充していき、実店舗を基盤としたWeb活用による新しい商業施設の楽しさを創造してまいります。

（※3） ICTとはInformation and Communication Technologyの略であり、情報処理及び情報通信に関連する諸分野における技術・サービスなどの総称であります。

<専門店事業>

専門店事業の売上高は47億89百万円(前年同期比111.4%)、営業利益は1億30百万円(前年同期比261.4%)となりました。

株式会社ヌーヴ・エイにつきましては、積極的な出店戦略を推進し、新たに7店舗を出店したほか、販売促進策の強化により、売上高、営業利益ともに前年同期実績を上回りました。

<総合空間事業>

総合空間事業の売上高は48億88百万円(前年同期比101.2%)、営業利益は96百万円(前年同期比84.4%)となりました。

株式会社パルコスペースシステムズにつきましては、商業施設で培ったノウハウ・技術を強みとし、大手不動産会社など新規クライアントの獲得により、売上高は前年同期実績を上回りましたが、営業利益は前年同期実績を下回りました。

<その他の事業>

その他の事業の売上高は18億17百万円(前年同期比121.0%)、営業損失は16百万円(前年同期営業利益47百万円)となりました。

株式会社パルコのエンタテインメント事業につきましては、演劇で、三谷幸喜作・演出『国民の映画』や宮藤官九郎作・河原雅彦演出『万獣こわい』等の話題作を上演したことに加え、新たな取り組みとして、外部企業とともに人気キャラクターをモチーフにしたメニューを扱う情報発信カフェを展開し話題を集めました。

また、株式会社パルコ・シティにつきましては、Webコンサルティング事業において外部売上高が伸びましたが、前年同期の大型受注の反動により、売上高、営業利益ともに前年同期実績を下回りました。

(注) セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して53億39百万円増加し、2,260億96百万円となりました。主な要因は、受取手形及び営業未収入金や福岡パルコ新館(仮称)の新築工事による有形固定資産の増加などによるものであります。当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して47億81百万円増加し、1,167億15百万円となりました。主な要因は、支払手形及び営業未払金の増加などによるものであります。純資産は、前連結会計年度末と比較して5億57百万円増加し、1,093億80百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末では、現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比較して7百万円増加し、35億36百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益27億72百万円に非資金項目となる減価償却費や特別損益項目等を調整し、42億21百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、4億17百万円の支出となりました。これは、主に福岡パルコ新館(仮称)の新築工事による有形固定資産の取得による支出などによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、38億7百万円の支出となりました。これは、主に有利子負債の返済や配当金の支払いなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の第2四半期連結累計期間及び通期連結業績予想につきましては、平成26年4月8日に発表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,529	3,536
受取手形及び営業未収入金	7,581	14,676
商品及び製品	2,984	3,165
仕掛品	278	321
原材料及び貯蔵品	40	39
その他	7,987	4,539
貸倒引当金	△5	△9
流動資産合計	22,396	26,268
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	121,524	122,173
減価償却累計額	△77,395	△78,045
減損損失累計額	△1,131	△1,117
建物及び構築物(純額)	42,997	43,010
信託建物及び構築物	17,667	17,672
減価償却累計額	△3,339	△3,557
信託建物及び構築物(純額)	14,327	14,114
機械装置及び運搬具	845	845
減価償却累計額	△645	△656
機械装置及び運搬具(純額)	200	188
信託機械装置及び運搬具	16	16
減価償却累計額	△9	△9
信託機械装置及び運搬具(純額)	7	6
その他	5,865	6,098
減価償却累計額	△4,469	△4,542
減損損失累計額	△137	△141
その他(純額)	1,257	1,413
信託その他	138	148
減価償却累計額	△84	△88
信託その他(純額)	53	60
土地	43,803	43,803
信託土地	46,992	46,992
建設仮勘定	4,950	6,792
有形固定資産合計	154,590	156,383
無形固定資産		
借地権	10,949	10,949
その他	898	896
無形固定資産合計	11,847	11,846
投資その他の資産		
投資有価証券	2,886	2,594
敷金及び保証金	27,299	27,066
その他	1,945	2,144
貸倒引当金	△209	△208
投資その他の資産合計	31,921	31,597
固定資産合計	198,360	199,827
資産合計	220,757	226,096

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	15,564	21,857
短期借入金	14,719	12,419
未払法人税等	1,216	1,169
引当金	1,626	2,154
その他	7,904	12,353
流動負債合計	41,030	49,954
固定負債		
長期借入金	35,705	31,654
引当金	1,788	1,769
受入保証金	32,740	32,602
その他	668	734
固定負債合計	70,902	66,761
負債合計	111,933	116,715
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,367	34,367
資本剰余金	35,129	35,129
利益剰余金	38,781	39,515
自己株式	△2	△2
株主資本合計	108,276	109,010
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	671	483
為替換算調整勘定	△124	△113
その他の包括利益累計額合計	547	370
純資産合計	108,823	109,380
負債純資産合計	220,757	226,096

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
売上高	65,282	67,670
売上原価	55,397	57,587
売上総利益	9,885	10,083
営業収入	914	1,025
営業総利益	10,800	11,109
販売費及び一般管理費	8,018	8,097
営業利益	2,781	3,011
営業外収益		
受取利息	17	16
受取配当金	3	3
雑収入	112	100
営業外収益合計	132	120
営業外費用		
支払利息	136	119
雑支出	22	14
営業外費用合計	159	134
経常利益	2,755	2,998
特別利益		
投資有価証券売却益	10	—
その他	0	—
特別利益合計	10	—
特別損失		
固定資産除却損	73	209
減損損失	—	14
その他	0	1
特別損失合計	74	225
税金等調整前四半期純利益	2,691	2,772
法人税等	1,104	1,125
少数株主損益調整前四半期純利益	1,587	1,647
四半期純利益	1,587	1,647

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,587	1,647
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	259	△187
為替換算調整勘定	10	12
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△0
その他の包括利益合計	273	△176
四半期包括利益	1,860	1,470
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,860	1,470
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成25年 3 月 1 日 至 平成25年 5 月 31 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成26年 3 月 1 日 至 平成26年 5 月 31 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,691	2,772
減価償却費	1,428	1,392
減損損失	—	14
賞与引当金の増減額 (△は減少)	577	596
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△3	△18
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	—	△78
受取利息及び受取配当金	△20	△19
支払利息	136	119
固定資産除売却損益 (△は益)	42	85
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,049	△7,094
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△475	△221
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,003	6,292
その他の資産・負債の増減額	546	1,681
その他	12	24
小計	5,890	5,546
利息及び配当金の受取額	20	19
利息の支払額	△195	△213
賃貸借契約解約に伴う支払額	△999	—
法人税等の支払額	△3,247	△1,131
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,468	4,221
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△300	—
有形固定資産の取得による支出	△30,946	△3,442
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	238	—
敷金及び保証金の差入による支出	△411	△170
敷金及び保証金の回収による収入	8,184	3,328
受入保証金の増減額 (△は減少)	339	△53
その他	△125	△79
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,023	△417
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	3,200	△2,500
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	1,999	3,499
長期借入れによる収入	15,500	—
長期借入金の返済による支出	△2,488	△3,850
自己株式の純増減額 (△は増加)	7	△0
配当金の支払額	△913	△913
その他	△42	△43
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,263	△3,807
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	10
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,270	7
現金及び現金同等物の期首残高	10,463	3,529
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,192	3,536

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高(注)1							
(1) 外部顧客への売上高	59,529	2,660	2,665	1,342	66,197	—	66,197
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,640	2,167	159	3,967	△3,967	—
計	59,529	4,300	4,832	1,501	70,165	△3,967	66,197
セグメント利益	2,591	49	114	47	2,803	△21	2,781

(注)1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益の調整額△21百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至 平成26年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高(注)1							
(1) 外部顧客への売上高	61,364	3,062	2,538	1,730	68,696	—	68,696
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,727	2,349	87	4,164	△4,164	—
計	61,364	4,789	4,888	1,817	72,860	△4,164	68,696
セグメント利益又は損失(△)	2,831	130	96	△16	3,042	△30	3,011

(注)1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△30百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。